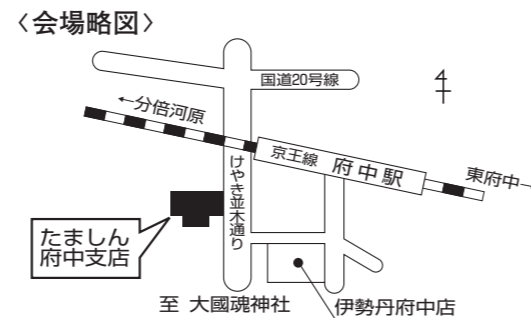


たましん地域文化財団・
東京市町村自治調査会共催

多摩の歴史講座 第22回

多摩の民俗芸能にふれる

多摩の民俗芸能は江戸・東京の影響を受け、多種多様です。本講座では、その中から神楽・獅子舞・説経節・車人形・農村歌舞伎を取り上げます。伝承者から直に歴史を解説いただき、実演・ピアノ・体験なども合わせてその芸能にふれる講座です。第3講では、国・選択無形民俗文化財、東京都指定無形文化財である八王子車人形西川古柳座の稽古場の見学会を行います。ふるってご参加ください。



第1講

9月21日(金) 13:30~15:30

「神楽がきた道～太々神楽と里神楽を中心に～」

講師：久保田 裕道 氏 (独立行政法人国立文化財機構東京文化財研究所 無形文化遺産部無形民俗文化財研究室長)

第2講

10月5日(金) 13:30~15:30

「若松派誕生150年～説経節の継承と創造～」

講師：若松 若太夫 氏 (説経節若松派三代目家元)

第3講

10月19日(金) 13:30~15:30

見学会「古典の素晴らしさ、未来を切り開く新作の楽しさを次世代に～八王子車人形～」

講師：西川 古柳 氏 (八王子車人形西川古柳座五代目家元)

会場：八王子車人形西川古柳座稽古場 (八王子市下恩方町1566)

内容：車人形の歴史や機構、動きの解説、舞台上での実演、人形(首・衣装)や「ろくろ車」の見学、希望者には車人形の操作体験

第4講

11月2日(金) 13:30~15:30

「八王子・小津の獅子舞～天然理心流の流れをくむ太刀遣い～」

講師：山下 正男 氏 (小津獅子舞太刀保存会会長)

第5講

11月16日(金) 13:30~15:30

「庶民と共に生きる歌舞伎～郷土芸能としての歌舞伎を伝える～」

講師：白橋山 誠 氏 (秋川歌舞伎保存会あきる野座座長)

■場 所 多摩信用金庫府中支店4階会議室(京王線府中駅南口2分)
※第3講のみ八王子車人形西川古柳座稽古場(JR中央線高尾駅よりバス15分、「川原宿大橋」バス停より徒歩10分)

■参加費 無料

■申込方法 記入例を参考に往復ハガキで一人様1枚でお申込みください。

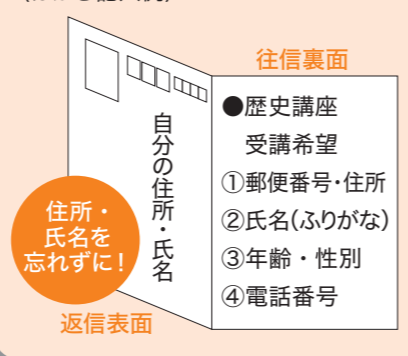
■申込締切 平成30年9月4日(火) 当日消印有効

■定 員 100名(定員を超えた場合抽選となります。)

■申込先 〒183-0056 府中市寿町1-5-1 府中駅北第二庁舎6F
多摩交流センター内「多摩の歴史講座」係

■お問合せ 《講座内容について》たましん地域文化財団 TEL 042-574-1360
《お申込みについて》多摩交流センター TEL 042-335-0100

〈はがき記入例〉



広域的市民ネットワーク活動助成事業紹介

檜原村 郷土芸能お祭り見学会

実施日 ①9月1日(土) 18:40~23:00頃 ②9月9日(日) 11:00~18:00頃
③9月15日(土) 17:00~0:30頃

(いずれも祭り主催者等の都合により変更の可能性あり。詳しくは下記問合せ先へ)

場 所 檜原村各集落の祭り会場 (集合・解散は「檜原村教育の森」または「レストラン四季の里」)

内 容 ①式三番 ②獅子舞・太神楽・馬鹿面囃子 ③神代神楽
都指定の無形民俗文化財にもなっている、檜原村の郷土芸能に触れる見学会(解説冊子付)を開催します。(※①・③は終了が深夜になりますのでご注意ください)

参加費 4,000円~8,000円(開催日により異なる)
(※①・③の終了後に宿泊を希望される場合は別途4,000円)

主 催 檜原学芸社

問合せ 檜原学芸社 担当 熊野・小澤

TEL 042-598-6928(NPO法人フジの森内)

E-mail hinohara-gakugeisha@outlook.jp



「多摩交流センターだより」の問合せ先

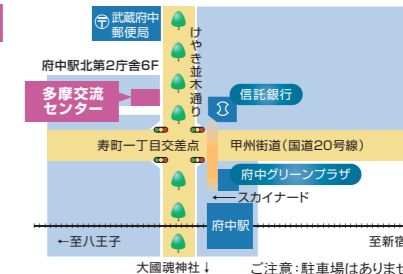
(公財)東京市町村自治調査会 多摩交流センター

〒183-0056 府中市寿町1-5-1 府中駅北第二庁舎6F

TEL 042-335-0100 FAX 042-335-0127

ホームページ <http://www.tama-100.or.jp/>(当調査会ホームページ内にコンテンツがあります)

☆多摩交流センターは、広域的市民ネットワーク活動の支援、多摩地域市民交流の場の提供等を目的として活動しています。



編集後記

- 暑い日が続いています。涼を求めて避暑地や海水浴に出かけたり、夏休みを利用して観光地を巡ったりする方も多いことと思います。
- ところで、毎年8月に大勢の人が訪れる場所として、東京の島しょ地域があげられます。東京の島しょ地域は、伊豆諸島と小笠原諸島から成り、無人島を含めると200以上の島がありますが、このうち、伊豆諸島の9島(大島、利島、新島、式根島、神津島、三宅島、御蔵島、八丈島、青ヶ島)、小笠原諸島の2島(父島、母島)の11島が「東京の島」としてよく知られています。
- 平成30年3月1日現在、島しょ地域の人口は2万5千人余で都全体の0.2%ほどですが、面積では約407km²で約19%を占めています。この地域は、我が国の排他的経済水域の約38%を占めるなど、資源確保の戦略上、重要な役割を担っているほか、複雑な海底地形と黒潮の流れにより、豊富な海洋資源に恵まれた日本有数の好漁場で、漁業は地域の基幹産業となっています。
- 島しょ地域は、今月号の表紙にも掲載されている大島町の裏砂漠、八丈町の南原千畳敷、小笠原村の南島など多様な地形と美しく個性的な自然景観を有する一方、サクユリ、アカコッコ、ハハジマメグロなど様々な固有の生物が生息するなど、国内有数の自然が残された貴重なエリアとなっています。

- また、新島では、ここで採掘される「コーガ石」を原料とした、オリブ色に輝く「新島ガラス」の制作体験ができ、八丈島では島に自生する草木を原料とする天然染料を使用した「黄八丈」の絹織物体験を楽しむことができます。
- 様々な魅力満載の島しょ地域ですが、各町村が情報発信やPR等を通じて島の魅力を高める取組を行ってきた結果、近年、来島者は増加傾向にあります。
- 伊豆諸島の中には飛行機で1時間以内で行ける島もいくつもあり、高速ジェット船が就航している島も多くあります。また、調布飛行場からは、大島、新島、神津島、三宅島へも就航しており、多摩地域からの交通アクセスも良いと言えるでしょう。
- 当調査会は、調査研究業務や協賛事業などを通じて、島しょ地域の自治体の発展や振興のお手伝いをしています。7月号で報告した「島じまん2018」のほか、今月6日から新島で開催される「愛らんどリーグ」にも協賛し、サッカーを通じた島しょ地域の子どもの交流を後押ししています。さらに、今年度は「東京島しょ地域におけるインバウンド拡大策に関する調査研究」を実施しており、魅力あふれる島しょ地域を訪れる外国人観光客の増加に向けた方策について検討を行っています。まだまだ夏真っ盛りの魅力あふれる東京の島々に、是非出かけてみてください。(S. K)